

アロハ

トライアスロン!



ハング・ルースで行こう!

「はい、チーズ!」

いよいよ学年末。一年にわたって連載してきたこの「アロハ!トライアスロン」も最終回、ということ、記念撮影。こんなとき、キミならどんなポーズをとる? Vサイン、ピースがいちばん多いかな。ふつうにピースするだけでなく、ちょっとしたなめに顔の横に添えるとか、工夫するよね。

ハワイで写真を撮るとき、いちばんポピュラーなのは親指と小指だけ立てる「アロハ」のポーズ。地元の人はずいぶん「シャカ・ポーズ」って呼んでいるよ。アロハと同様、Hello & Good-bye、Thank you、I love you などなど、どんな意味にも使える便利なポーズ。地元の人、ちよつとしたポーズの違いでいるんな意味を使い分けられるとも言われている。たとえば、シャカ・ポーズの手を振るように前後させるとか、斜めに持ち上げるようにするとか。もちろん笑顔も忘れずにキープ。

さて今日、紹介したのはシャカ・ポーズに込められた意味のなかでもっとおきの「ハング・ルース (Hang-loose)」の意味。



ロコたち(ハワイにすんでいる人たち)のホンモノのシャカポーズは手の甲をこちら側に見せて斜めに構えるのがポイント。白い歯と笑顔も忘れずに! キミもハング・ルースな気分写真に写ってみたい?(ハワイ島BODY GLOBE シュノーケリングツアー)

ハング・ルースって何? 「気楽に行こう」とか、「自由に」、「のんびりと」という意味だよ。こういうときのシャカ・ポーズは真ん中の3本の指を自然に軽く握る感じ。トライアスロンのように過酷といわれるスポーツだって、アスリートは「Looking good」「Good job!」の応援(10月号を見てね)に、ハング・ルースを出してこたえる。そんなときは一段と歓声が大きくなるよ。そう、苦しいときだってハング・ルースを出せば、自然と元気が出ちゃう。

今までトライアスロンのいいことばかりを書いてきたけど、もちろん中には、自分のことばかり考えて、エイドステーションでドリンクを取り損ねたからといってボランティアの人に「何やってんだ!」とどなったり、ゴミをどこにでも捨てたり、審判が見ていないからってルールを守らなかったり……、そういう選手も現実にはいる。厳しいレースをしているんだっていう気持ち、何をしても許されるっていう甘えになつているのかもしれない。でもそんなときこそ、ハング・ルース! 自分だけでなく、ボランティアも、車イスの選手も、トップを走りながらゴール直前で力尽きた選手も、みんな同じ気持ちでゴールを目ざし、そして楽しんでるんだっていうことを思い出させてくれる。

レースが行われる地元の人との交流、スター

トライインに立つまでの自分の努力、そして支えてくれた人。そういうことも立ち止まって考えてみよう。

2003年10月18日、第25回ハワイ・アイアンマンレースが行われ、第1回の優勝者のゴードン・ハラー(2月号)も、脳性まひの息子とその父、ホイットニー親子(8月号)も、8回も優勝経験のあるポーラ・ニュービーフレイジャー(2月号)も、みんなスタートラインに戻ってきた。25年間、ずっと張りつめた気持ちでトレーニングし続けていたら、こんなことはないかもしれない。ハング・ルースの気持ちをどこかにもって、自分のゴールに向かって進んでいこう。

わたしの趣味であるトライアスロンのことばかり書いてきたけど、楽しんでもらえたかな? またいつかどこかで会おうね。それでは最後にみんなアロハ!



ハワイのカメハメハ大王からもアロハをキミに送ろう